

「理解不十分でも成立を」

安保法案で自民・高村氏

自民党の高村正彦副総裁は六日、青森市内での講演で、安全保障関連法案に関

し、国民の理解が得られなくても今国会中に成立させる方針を強調した。「国民のために必要だ。十分に理解が得られていなくても決めないといけない」と述べた。

同時に「国民の理解を得られなければ次の選挙で政権を失う。それが民主的統制だ」と述べ、次期衆院選で審判を受けたいとの意向を示した。

自衛隊の海外派遣に例外なく国会の事前承認を求め、次世代の党など三党の修正案について「民主的統制は極めて大切だ」としながらも「衆院に戻して成立させる時間的余裕があるか考えないといけない。最後になると野党はあらゆる手段で抵抗していく」と

語り、法案自体の修正は困難との認識を重ねて示した。

一九九一―九二年の三国会をまたいだ国連平和維持活動（PKO）協立法を踏まえ「三国会かけたから合意を得られて、スムーズに成立したかというところではない」として、安保法案の早期成立の必要性を指摘した。

9/7 景福

民主・岡田代表

強行採決けん制

「大きな傷残す」

民主党の岡田克也代表は六日、奈良市で街頭演説し、安全保障関連法案の採決強行は容認できないとの考えを強調した。「国民の多くが今国会での成立に反対している。（採決を）強行することは絶対許されず、大きな傷を残す」と安倍政権をけん制した。

記者団に「政府の説明が不十分という声は圧倒的

だ。採決は後世に大きな汚点を残す」とも述べた。

枝野幸男幹事長は静岡市での街頭演説で「百年に一度の悪法を止めるため、最後の最後まで戦い抜く」と訴えた。